

【資料】

横田国臣の旧民商法施行断行論

村上博

略歴

はじめに

嘉永三年 八月九日 大分県宇佐郡横田村〔辻村〕に、横

田宗雄の長男として生まれる

橋本甚内・鴛海退蔵・広瀬林外らに

学ぶ

二一才の夏 英学修行のため長崎広

運館で学び(約一年間)のち中津に

戻る

明治五年 八月八日 慶應義塾に入るが(二三才)、学資欠

乏のため退学

横田国臣(一八五〇～一九二三)の経歴や司法官としての
の事績については、既に手塚豊氏による詳細な研究があり、
我々は、司法官としての横田の生涯を比較的容易にたどる
ことができる。(1)(2) とりわけ、明治三九(一九〇六)年から大
正一〇(一九二一)年まで一五年間の長きにわたって大審
院長の地位にあったこと(歴代最高法衙の長として空前の
最長在職期間)は、夙に知られるところである。

- 六年 五月 埼玉県庁内の師範学校(学生改正局)の一等教授となる
- 広瀬門下の同輩清浦奎吾(同局主任で大教授心得)の引きによる
- 県令白根多助の命により『律例要条』を編纂(七年五月刊)
- 慶應義塾に復学、再び退学
- 司法省一二等出仕
- 一〇年 六月 検事補、民法編纂掛兼務、治罪法案審査局御用掛兼務
- 一三年 三月 検事
- 一〇月 東京大学法学部講師
- 一五年 二月 司法省権少書記官
- 一六年 一〇月 司法省第四局副長
- 一七年 七月 刑法局長心得
- 二二月 司法省少書記官、参事院員外議官補兼任
- 一九年 二月 検事(東京控訴裁判所詰)
- 三月 在官のまま、独・仏へ自費留学「司法部内行政裁判事務取調」
- 二四年 一月～四月 官費出張に切り替え
- 七月 司法省参事官兼任
- 八月 司法省参事官(専任)
- 二五年 一二月 司法省民刑局長(四四才)(山県有朋)
- 二九年 一〇月 司法大臣・清浦次官の下)
- 立、司法大臣に清浦が就任)
- 三一年 六月 検事総長
- 一〇月 一五日 懲戒免職 内閣更迭(大隈重信内閣、大東義徹司法大臣)のため
- 一二月 八日 内閣更迭(山県内閣、清浦司法大臣)
- 三二年 四月 東京控訴院検事長
- 三七年 四月 再び検事総長
- 三九年 六月 法律取調委員
- 七月 三日 大審院長(第一代)
- 四〇年 六月 法学博士
- 大正四年 男爵
- 一〇年 六月 一三日 判検事定年制施行(五月)により、大審院長を退官
- 一二年 二月 二四日 死去

しかし、横田については、(1)彼が得意とした刑法理論の特徴、(2)法典論争から民法編纂過程における位置付け、あるいはまた、(3)大審院長としての評価など、さらに検討すべき多くの問題が残されている。本稿では、右の(2)を検討するうえで不可欠な資料である、いわゆる法典論争に関して、横田が著した二編の意見書、(A)『法律哲学大意』と(B)『政略学大意 付新法実施論』を紹介することにしたい。

(A)『法律哲学大意』は、東京控訴裁判所詰検事として在官のまま、「司法部内行政裁判事務取調」を目的として欧州に自費留学していた横田が、明治二三年八月に、ドイツで執筆した論稿(同年一月出版)であり、(B)の立論の基礎として、かつて自身も信奉していた性法、すなわち天然法を道理法と解する説が誤りである旨を論じたものである。

また、(B)『政略学大意 付新法実施論』は、明治二五年五月に出版されているが、その執筆は(A)より早く、やはりドイツ滞在中の明治二三年一月に山田顕義司法大臣宛に上申された意見書であり、かつて手塚豊氏によっても『政略哲学大意』⁽⁴⁾は…司法大臣山田顕義に対し、法典断行論を上申したもので、この種の文献として注目すべきものであるが、これまでの明治法典論争の研究においては、全く見落

されている」と指摘されながら、その詳細については今まで知られていない。

注

(1) 司法官としての経歴については、『帝国法曹大観』(大正四年、三五頁、横田「余が司法上の経歴」『法曹記事』(第二〇巻一号、明治四二年)を参照。なお、横田自身の筆になると思われる手記が、慶應義塾大学福澤研究センターに所蔵されている。

(2) 手塚豊「横田国臣」(別冊太陽三〇「慶應義塾百人」平凡社、一九八〇年)三一・五〇頁、同「大審院長 横田国臣」(『福澤論吉年鑑』三、一九七六年、のち、手塚著作集一〇『明治史研究雑纂』慶應通信、一九九四年)一四七〜一五四頁。なお、その肖像画が、『日本の法律』第五卷一一号(明治二六年一月)に見られる。

(3) 横田は、『律例要条』(明治七年五月刊)を編纂し、『治罪法講義』(一〜四、明治一三〜一六年刊)を出版したほか、『証拠大義』『法学協会雑誌』(第一三巻一、明治二八年)、『刑法草案について』『法学協会雑誌』(第一六巻四号、明治三二年)、『刑法の立法事業』『刑事法評林』(第一巻四号、明治四二年)、『陪審制ヲ廢シテ情実裁判所ノ設定ニ及ブ』『法律新聞』(第五八六号、明治四二年)、『陪審制度所感』『法律新聞』(第九〇八号、大正二年)、『法律根本問題』『法律新聞』(第九六六・九七一号、大正三年)など、刑法関係の論文を数多く執筆している。

(4) 『政略学大意』を、手塚氏は「政略哲学大意」と記しているが、これは、横田が、「靈魂哲学大意」と①『法律哲学大意』・②『政略学大意』を合本して、明治二十九年一〇月一二日に『靈魂・法律・政略哲学大意』と題して再刊したことから（内容は同一）、表題を取り違えられたのであろう。

なお、横田の著書としては、法律関係以外では、『宗教改良論』（明治三五年刊）・『独庵哲論』（明治三九年刊）・『宇宙根本問題』（明治四一年刊）や『觀察哲学』（未見）などがある。

法律哲学大意

実兄国臣欧洲留学以来学说実務ノ質問往復十回本文ハ此頃ノ寄贈ニ係ルモノニシテ頗ル本邦現今ノ国情ニ所感アルモノ、如シ故ニ印刷シテ広く諸彦ノ高評ニ供ス

明治二十三年十月

横田四郎識ス

法律哲学大意

在独逸国伯林府

横田国臣 著

予ノ欧洲ニ留学スルヤ学説上実務上各種ノ法律問題ヲ携帯シタリト雖モ就中緊要ノ問題トシタルハ法律ハ如何ナル真理ヨリ生出スルモノ乎其真理トハ果シテ如何ナルモノ乎ヲ推究センコトヲ期望セリ

予ハ本邦ニ於テ最初ヨリ性法即チ天然法ノ説ヲ信シタル者ニシテ予ノ先年著述シタル治罪法講義ノ前文ニ於テモ亦之ヲ説明セリ然レトモ予ハ天然法ノ説ヲ信シナカラ法律ノ条項ニ就テ之ヲ分析スルニ苦ミ終ニ自ラ以為ラク天然法トハ真正ノ道理ニ外ナラサルモノトシテ治罪法講義ノ前文ニモ亦天然法ハ道理法ナリトノ意義ヲ指示シタルハ恰モ「カント」氏ヨリシテ天然法ヲ道理法トシタルニ均ク其妄想ヲ一笑ス可キノミ

予ノ伯林大学ニ入ルヤ直ニ天然法ノ科業ヲ搜索シタリト雖モ現今独逸国ニ於テハ斯ノ如キ科名サヘ有ルコトナク法律ノ高尚ナル学説ハ哲学ノ一科ト為レルヲ以テ哲学教授「チエルレル」氏ノ法律哲学ノ授業ニ従事シタリト雖モ予ノ独語ニ未熟ナリシト哲学ノ高尚ニシテ耳新ラシキト頗ル隔靴ノ感少カラス故ニ良書ヲ搜索シタリト雖モ新造ノ学説ニシテ新著甚タ零々タリ単ニ伯林大学教授「ラツソン」氏ノ著書ハ千八百八十二年ノ出版ニシテ現今ニ於テ最モ秩序ノ完備シタルモノトス予ハ最初此書ヲ繙読シテ大ニ悟ル所アリ其他数種ノ法律哲学書ヲ参考シタリト雖モ目下独逸国ニ於テ天然法ノ説ハ陳腐ニ属シ一人トシテ之ヲ主張スルノ学者アルヲ聞カサルノミナラス法律上ニ於テ根拠トスル天然法

ノ文義サハ既ニ一變セリ

抑モ法律上天然法ノ如何ヲ推究スルコトノ必要ナリシハ千八百三年三月十五日布告仏国民法第四条ニ裁判官ハ法律ノ不備不明ヲ以テ裁判ヲ拒ムコトヲ得サルノ成文アリ然則法律ノ不備不明ノ場合ハ如何ナルモノヲ適用ス可キ乎即チ天然法ニ依ル可シトハ仏国法学者ノ通論ナル可シ塊国民法ハ千八百十一年六月一日ノ布告ニシテ固ヨリ仏国民法ヲ参照シタルモノニシテ其第七条二項ニ於テ仏国民法第四条ノ文意ヲ一層明示シ右ノ場合ニ於テハ天然法ノ原則ニ從ヒ裁判ス可キコトヲ掲載セリ依テ「スツーベンラウホ」氏ノ塊国民法条釈ヲ繙読スルニ該条ノ天然法トハ哲學的ニ論スル單純ナル天然法ノ模範ニ非スシテ通常成法ト均ク全体ノ法意ニ根拠スル成法ノ当然ナル模範ト解セサル可カラサルコトヲ明載セリ独国民法草案第一条ハ終ニ該解釈ト同一ノ意義ヲ規定セリ

故ニ予ノ携帶シタル最大緊要ノ問題ハ最早今日從事ス可キ学科モ無ク恰モ仙境ニ入テ神仙ニ逢ハス宝山ニ登テ宝玉ヲ見サルニ異ナラスト雖モ新ニ神仙宝玉ニ代用ス可キ獲物ヲ発見シタルハ欣喜自禁スル能ハサル所ニシテ我邦ノ留学生ハ何故ニ今日マテ斯ノ如キ学説ヲ輸入セザリシ乎我邦ノ外

国教師ハ何故ニ斯ノ如キ学説ヲ明示セザリシ乎ト一時ハ吾独リ之ヲ翫味スルノ忍耐ナクシテ甲ニ語り乙ニ伝ヘ就中帰朝ノ法学者ニ向テハ速ニ此学説ノ伝播ス可キコトヲ依頼シタルハ両三年以來ノ事ニシテ而テ在留法学者中ノ十中八九ノ賛成ヲ得タルハ予ノ益々満足スル所ナリ

抑モ予ノ此学説ノ伝播ヲ欲スルハ単ニ法学上ノ利益ノ為メノミナラス元來法律哲學ハ政略学上ニ非常ナル效驗ヲ及ホス可キモノニシテ現今本邦ノ如キ民情政變ニ際シテ最も有要ナルコトヲ感触スルニ依ルモノトス予ハ次款ニ於テ先ツ天然法道理法ノ妄説ナルコトヲ駁論ス可シ

○天然法ノ説タルヤ想像ノ国及ヒ想像ノ法ヲ根拠トスルモノニシテ其傳來頗ル久シト雖モ殊ニ千六七百年代ヨリ隆盛ニ至リ明ニ其名稱ノ生シタルハ有名ナル蘭人「フーゴー、グロチウス」氏ニ始マル其主旨タルヤ總テ現行成法ニ反対シテ想像ノ法律ヲ案出スルヲ以テ天然法ノ問題トス而シテ其天然法ナルモノハ固ヨリ天性ニ因由スルヲ以テ一切ノ時代ト一切ノ國民トニ適施シ之ニ依テ現行法律ヲ矯正ス可キコトヲ主張スルモノナリ

「カント」氏ニ至リ法律ノ基礎ニ付キ全ク天然法ト異リタル解釈ヲ設立シ法律ナルモノハ人類ノ天性ヨリ誘出スルニ

非ス又各人ノ意匠及ヒ利益ヨリ誘出スルニ非スシテ実研ノ道良心及ヒ其道良心ノ定命ヨリ誘出スルコトヲ主張シ「フイヒテ」氏ハ天然法ニ対シテ之ヲ道理法ト称セリ

天然法ト謂ヒ道理法ト謂ヒ諸子ノ説幾分ノ異同アルニ拘ハラズ総テ之ヲ要スルニ古今各国不変不易ノ法律ヲ製出セント欲スルノ想像タルヤ毫モ異ナルコトナキ者ナリ即チ曰ク「国ナル者ハ斯ノ如キモノナラサル可カラス法ナル者ハ斯ノ如キモノナラサル可カラストノ理論ハ殆ト歐洲全土ノ人心ニ注射シ其注射ノ影響タルヤ直ニ国ヲシテ斯ノ如クナラシメ法ヲシテ斯ノ如クナラシメントノ実劇ヲ顯出スルニ至レリ当時仏国ノ革命其他之ニ繼續スル歐洲ノ擾乱是ナリ其擾乱ヨリ生スル利益ハ固ヨリ擾乱ヨリ生スル損害ヲ償フ能ハサルハ勿論ナリト雖モ其損益ノ如何ニ拘ハラズ単ニ天然法ノ妄説タルコトヲ弁セサル可カラス

抑モ各人ノ自ラ認メテ性理トスルハ如何ナルモノヲ以テ標準トスル乎総テ従来ノ見聞上ヨリ注射セラレタル知識ノ反射ニ外ナラサル可シ維新前ノ標準ハ必スシモ維新後ノ標準ト為スコカラス維新後ノ標準モ亦能ク幾千百年ヲ繼續スルヲ得ンヤ試ニ仏者ノ想像ニ出タル地獄極楽ノ図画ヲ一見セヨ閻魔大王ノ唐服唐冠其顔色ノ赤ク其容貌ノ嚴ナルノミニ

シテ耳目眉口毫モ人間ニ異ナラス其青鬼赤鬼ト称シ牛頭馬頭ト称スルモ或ハ六面觀音千手觀音ト称スルモ又耶穌教ノ天使ハ人体ニシテ鳥翼ヲ有スル等モ総テ人間世界ノ事物ヲ配劑シタルモノニ外ナラス其他如何ナル宗教タルヲ問ハス神體鬼像總テ然ラサルハナシ其想像ノ見聞外ニ出ルハ甚タ難カル可シ有名ナル詩人「シルレル」氏ハ未タ瑞西ヲ見スシテ「ウイルヘルム、テル」ノ劇本ヲ起草セリ然ルニ風土人情恰モ當時ノ写真ニ異ナラス同氏ノ天敏ナル思想ヲ歎セサル者ナシト雖モ同氏モ亦空想ヨリ之ヲ得タルモノニ非ス地誌歴史其他見聞上ヨリシテ既ニ其思想ヲ注入セラレタルニ外ナラス又同氏ノ著作ニシテ支那内親王「ツーランドツト」ナル劇本アリト雖モ其文筆ノ美ナルニ拘ハラズ毫モ支那ノ人情風俗ニ似タル所モナク恰モ土留古埃及等ノ想像ヲ写出シタリト評スルノ外ナシ

天然法学者ニシテ親屬相婚セサルノ理由ヲ發見スル能ハス去リトテ親子相婚モ性理ニ背カスト主張スルコトモ能ハスシテ頭腦ヲ苦メタル如キハ一笑スルニ足レリ又性法学者常ニ天然法ノ判然タル例証トシテ説テ曰ク借リタルモノハ返サブル可カラス是レ天然法ナリ云々聴ク者感服セサルナシ然レトモ是唯借ノ文義ヲ説クニ過キス即チ与ルトハ其物ヲ

受用セシメテ更ニ返戻スルニ及ハストノ意義ヲ含ミ借ルト
ハ其物ヲ受用シテ更ニ其物又ハ同様ノ物ヲ返戻ス可シトノ
意義ヲ含ムニ過キス猶ホ予ハ家ニ帰ル可シト云ヒ帰リテ復
タ来ル可シ又ハ行ク可シト云フテ契約スルニ異ナラス若シ
之ヲ天然法ト云ハ、行クトハ前ニ歩ヲ進ムルコトナリ前ト
ハ後ナルコトノ反対ナリト云フ如キ総テ事々物々ノ名称ヲ
天然法ト謂ハサル可カラス其文義ニ過キサルコトノ判然タ
ル所以ハ斯ノ如ク明白ニシテ必要ナルコトナカラ各国ノ法
律中借りタルモノハ返サ、ル可カラストノ明文ナキヲ以テ
モ了解スルニ足ル可シ

各人ノ自ラ認メテ性理トスルハ其時代ヨリ与ヘラレタル推
測ニシテ将来永続ス可キ推測ニ非サルナリ若シ古今法律ノ
変更アルコトヲ知ラハ各国亦其差異アル可キコトヲ知ルハ
容易ナル可シ予ハ次款ニ於テ猶ホ法律ノ変更差異アル事由
ヲ弁ス可シ

○吾レ七色ヲ見テ始テ色ノ區別ヲ判断スルコトヲ得ヘシ決
シテ生来盲者ノ想像ノ如クナル可カラス吾レ從來ノ道德法
律ヲ知テ始テ是非ヲ判断ス決シテ阿非利加内地ノ山中ニ独
居成長シタル者ニシテ今日文明社会ノ道德法律ヲ想像スル
コトヲ得ヘキモノナラス然則今日ヨリシテ千百年後ノ法律

ヲ一定セント欲スルモ到底想像ノ及フ可キコトニ非サルノ
ミナラス古今一定ノ法律アル可キモノニ非ス天地間ノ妙用
ハ決シテ今日ノ人ヲシテ尽ク将来ノ事物ヲ確定セシムル如
キ小機關ニ非サルナリ

孔孟ノ道ハ古ヲ慕フテ今ヲ忘ル、ノ弊アリト雖モ猶ホ後ノ
学者或ハ右説ヲ是トシ或ハ左説ヲ是トシテ適宜ノ融通ヲ生
シ時勢ノ変遷ニ從テ其学説モ亦幾變遷ヲ経タルモノナリ尽
ク書ヲ信スレハ書ナキニ若カスト云ヒ彼モ一時ナリ是モ一
時ナリト云フ如キハ其變遷ノ原則トシテ見ル可キモノナリ
仏者モ亦方便ナリトノ口実ヲ以テ前説ノ非難ヲ避ク又耶蘇
神学者ノ説ヲ聴クニ神学歴史中ノ奇怪ニシテ事理ニ適セザ
ルモノハ総テ當時ノ假想トシテ論外ニ抛却シ成ル可ク学者
ノ先鞭ニ駕御セラレサルコトニ注意セリ若シ今日孔孟釈迦
耶蘇ノ徒ヲシテ再生セシメハ却テ其説ノ進歩シタルニ一驚
スルナラン宗教論ノ如キハ茲ニ必要ナシト雖モ現今本邦教
徒ノ如キモ儒ノ時ニ從ヒ仏ノ方便ヲ用ヒ耶蘇宗徒ノ假想ヲ
説クヲ殷鑑トセサル可カラス若シ昔時ノ愚夫愚婦ヲ誘導シ
タル旧手段ニノミ依ルトキハ時勢ノ進歩ニ伴フ能ハスシテ
小学生徒ノ愚昧ヲ招クニ至ル可シ

故ニ神聖ト称スル者ト雖モ有ヨリ無ヲ察スルノミニシテ無

ヨリ無ヲ察スルハ到底能ハサルノミナラス有ヨリ無ヲ察スルモ亦百中ヲ期シ難カル可シ神聖ノ格言モ後進ノ勉達ヨリシテ益々光暉ヲ生スルモノナリ法律モ亦然ルコトアリ学説上実務上ニ於テ法律ノ精神ハ云々立法者ノ旨趣ハ云々ト類ニ汲々勉達スルニ從ヒ不当ナル解釈ヲ排却シ不便ナル手續ヲ矯正シ最初新法ノ不当不便ヲ喋々シタルモ慣行ニ随テ円活ヲ生シ円活ニ随テ便益ヲ感スルニ至ル可シ法律ノ精神必スシモ最初ヨリ完美ナルモノニ非ス況ヤ立法者ノ如キハ當時想像スルコトモ能ハサリシ学説ノ整頓実務ノ活動ヲ見ルコトアル可シ国臣屢々実研スル所ナリ

法律哲学上ニ於テモ亦幾分將來ノ起事ニ適合ス可キ原則ヲ予定スルコト能ハサルニ非ス然レトモ法律ハ事情ノ変遷ト均ク夥多ナル原案ヲ有スルヲ以テ到底予想ノ及フ可キコトナラス譬ヘハ人力車ノ製造アリテ駕籠屋ノ事情一変シ鐵道ノ構造アリテ人力車ノ事情一変ス最モ著明ナル例証ハ本邦ニ於テ西洋事物ノ輸入ヨリシテ殆ト社会百般ノ事情一変シタルニ非スヤ如何ナル智能ヲ有スル者ト雖モ幕政時代ニ在テ今日ノ事情ヲ予想シ之ニ適合スル原則ヲ予定スルコトヲ得ヘキ乎況ヤ性法学説ノ如ク千万年後ノ事情ニ一定ノ原則ヲ予定セント欲スルニ於テテヤ

蓋シ物理的ノ原素ハ有形ニシテ定限アルモ法律的ノ原素ハ無形ニシテ殆ト定限ナキモノ、如シ予幼時師ニ隨ヒ国歌ヲ学フ或ル人ノ曰ク国歌僅ニ三十一音之ヲ反覆転倒スルモ定限アリ猶ホ八卦ノ六十四卦タルニ過キサルカ如シト其後或ル新聞ニ於テ国歌ノ詠尽サル可キコトヲ論シタルヲ見タリ数理ニ於テ然リト雖モ事理ニ於テ然ラス風流家ハ安心シテ歌ヲ詠ム可シ況ヤ法律哲學者ハ法律ハ何者ナリトノ問題ヲ抛却シテ法律ハ何者ナラサルヲ得ストノ問題ニ進入ス可カラス斯ノ如キ問題ハ恰モ幽靈ノ分析ヲ為スカ如ク哲学上ノ目的ニ非サルナリ「ラツソン」氏曰ク法律哲学ノ問題ハ存在ノ法律ニ就キ其合理上ノ内部ノ關係及ヒ其活動上ノ他ノ方向並ニ状態ノ關係ヲ解説スルニ在リ云々次款ニ於テ法律生出ノ原由ニ論及ス可シ

○法律ト道德トヲ判然區別スルハ中古ヨリノ事ニシテ上古ハ之ヲ混同シテ単二人ノ依ル可キ道ナリト心得タルニ過キス其道ナル者ハ人間開闢ノ昔ヨリ具備シタル者ニ非ス木屋シテ転スル者ハ漸次土居ノ安穩ヲ發明シ土居シテ病ム者ハ漸次木屋ノ必要ヲ感触スルニ至レリ本邦ニ於テ煉瓦石室ノ堅固安全ヲ知得シタルハ僅ニ此頃ニ過キス道ノ生出スルモ亦斯ノ如キニ外ナラス最初ハ禽獸ノ雜居ニ異ラス他人ノ肉

ヲ奪ヒ他人ノ衣ヲ剥クニ巧ナルヲ以テ無上ノ豪傑ト称シタル時代モアリタルナラン親屬相婚ハ勿論ニシテ夫婦ノ名義モナカリシ時代モアリタルナラン然レトモ千百年ノ經歷上或ハ左ヲ是トシ或ハ右ヲ是トシ隣人ヨリ群民ニ及ヒ終ニ一箇ノ道ヲ生出シタルモノトス例ヘハ親屬相婚ノ如キモ却テ一家ノ安寧ヲ妨碍スル等種々ノ原因ヨリシテ最初ハ親子ノ相婚ヲ快トセス次ニ兄弟姉妹其他ノ親屬ニ延及シ人倫ノ大義ヲ生出スルニ至リタルモノナリ仁義忠孝節義云々ノ如キ漸次幾回ノ變遷ヲ以テ今日ニ至レリ昔日ノ道トスル所必スシモ今日ノ道ニ非サルナリ現ニ維新後法律ハ勿論ニシテ仁義忠孝節義ノ如キモ幾分ノ變更ヲ生出スルニ至リタルハ明白ナル例証タル可シ二十四孝ヲ馬鹿息子トスルハ今日ノ思想ナリ楠公ノ戦死ヲ權助ノ縊死ト同視スルモ現時ノ限界タルニ過キス其忠孝ハ其時代ニ於テ能ク人道ヲ維持シタル者タリヤ疑ヲ容レサルナリ

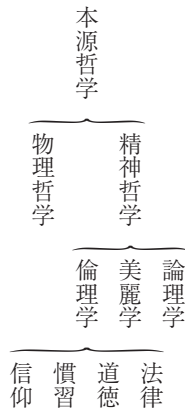
近代ニ於テハ隣人ヨリ一町村ニ及ヒ一町村ヨリ一郡一國ニ及フ如キ遅々タル慣習ヲ待ツニ暇アラス法律ノ生出モ機械的ノ簡便ト爲リ千例万規モ一片ノ布告ヲ以テ一朝全國ニ布及スルコトヲ得ヘシ然レトモ是唯其方法ノ簡便ニシテ法律生出ノ原由ハ從來ノ歴史ト現時ノ氣運トニ依ラサル可カラ

ス其歴史ト氣運トヲ察スルハ実研者ノ職務ニシテ其歴史ト氣運トニ付テノ關係ヲ論スルハ政略学ニ屬スルヲ以テ茲ニ贅セス猶ホ未款ニ於テ法律哲学ノ位置ヲ論定ス可シ

○普通人民ノ最モ信向シ易キハ論理的ノ理論ナリ是則天然法道理法ノ蔓延シタル所以ニシテ本邦ノ如キハ天然法道理法ノ何者タルヲ知ルト知ラサルトヲ問ハス中人以上ハ論理的ノ理論ヲ以テ脳裡ノ本尊トスル者ノミト謂フモ甚シキ過言ニ非サル可シ国臣モ亦嘗テ其一人タリシナリ蓋シ論理学ノ真正ナルコトト倫理学ノ善良ナルコトトノ區別ヲ知ルコト最モ肝要ナリ孔子モ亦此區別ノ判然ナラサルヨリシテ曖昧ナル答弁ヲ為シタルコトアリ即チ曰ク父ハ子ノ為メニ隠シ子ハ父ノ為メニ隠ス直其中ニ在リト若シ今日予ヲシテ答ヘシメハ親子互ニ其罪惡ヲ攪發スル如キハ假令真正ナルコトニモセヨ善良ナルコトニハ非スト云ハン而已最モ屢々日撃シテ片腹痛キハ老朽実務家ニシテ少年書生ヨリ論究セラレ頭ヲ搔キナカラ理窟ハ左ルモノカハ知ラサレトモ實際ニハ困難ナリト云ヒナカラ終ニ理論ノ為メニ制セラル、者アリ笑止ノ至ト謂フ可シ老子曰ク道ト道トスヘキハ常道ニ非ス名ノ名トスヘキハ常名ニ非スト又世人或ハ理外ノ理アリ等ノ語ヲ用ルハ此區別ノ生スル所以ナリ近来ノ学者単二人

問ノ情欲質ヨリ推究シテ始メテ天然ヲ悟リタルモノ、如ク心得ヘ官吏ノ賄賂ヲ貪リ番頭ノ筆先ヲ胡麻化シ議員候補者ノ詐術ヲ用テ選挙ヲ争フ如キハ道理至極ナリト云ハハ又許リノ主義ヲ説ク者ナキニ非ス未タ世道ノ妙味ヲ知ラサル者ト謂フ可シ

固ヨリ論理学ノ真正ナルコトト美麗学ノ美麗ナルコトト倫理学ノ善良ナルコトトハ精神哲学中ニテ互ニ関係ヲ有スルニ因リ倫理学中ノ一科ナル法律哲学モ亦論理学ノ必要ヲ感スルハ勿論ナリト雖モ其基本タルヤ倫理学中ノモノニシテ論理学中ノモノタラサルコトト法律ヲ繙カスシテ判然タル可シ左ニ法律哲学ニ関スル学系ヲ揭示ス



○右ハ単ニ法律哲学ノ基礎ヲ略述スルニ止ルモノニシテ国及ヒ法ノ成立及ヒ性質等法律哲学ノ本文ヲ論スルハ他日ニ譲ル明治二十三年八月独逸国柏林府ニ於テ横田国臣草ス

明治二十三年十一月十一日印刷并出版 (禁元買)

著者 大分県平民

横田 国 臣

発行者 大分県平民

横田 四 郎

東京市牛込区神楽町

二丁目二十番地

印刷者 兵庫県士族

長尾 景 弼

東京市芝区茸手町

壹番地

政略学大意

本書ハ目下新法実施ノ延期説ト断行説ト突然両議院ノ議題タラントスルニ際シ時情切迫徒ニ看過ス可カラサルノ感想ヨリシテ匆卒之ヲ起草シ単ニ新法実施論ノ政略問題タル基礎トシテ政略学ノ原理ヲ摘出スルニ過キス固ヨリ焦眉ノ急ニ応スルモノナレハ其学序の文体ニ非サルヲ咎ムルコト勿レ

明治二十五年五月東京ニ於テ

著者識ス

政略学大意 付新法実施論

横田国臣 著

曩ニ国臣留学中法律哲学大意ヲ起草シ実弟四郎ヨリ之ヲ印刷シテ諸彦ノ高評ニ供シタルコトアリ国臣ハ引続キ政略学靈魂学ノ大意ヲ起草シ更ニ諸彦ノ高評ヲ仰カント欲スルノ素志ヲ有スル者ナリ何トナレハ本邦ノ開明未タ久カラス学説未タ深カラズ維新以來天賦ノ人權天然ノ条理等ノ新熟字ヲ応用シテ恰モ儒者ノ仁義道德ヲ説クト均ク世人ハ之ヲ神裁ニ出タルモノ、如ク尊崇シ全国到ル処自由自由トノ口実ヲ以テ充滿セラレタリ国臣モ亦自由ヲ愛スルモノナリト雖トモ其天賦ト謂ヒ天然ト謂フ所ノ天ナルモノハ果シテ何者ナル乎ノ研究ニ頓着スルコトナク衆人ノ腦中単ニ西洋ノ流行物ナリトノ根拠ノミヲ有スルハ恰モ腐儒ノ腦中ニ聖人ノ遺言ナリトノ根拠ヲ有スルト均ク其輕信ノ妄想ハ之ヲ一笑ニ付スルモ可ナリト雖モ其妄想ノ結果ハ吾輩ノ專修スル法律ノ原理ニ影響スルコト僅少ナラス是レ法律学者モ亦靈魂説ヲ研究スルコトノ必要ヲ感スル所以ナリ然レトモ靈魂説ニ付テハ茲ニ之ヲ論スルノ時間ヲ有セズ直ニ政略学ノ原理ニ論究ス可キナリ

国臣法律哲学大意ニ於テ法律哲学ナルモノハ政略学ト非常

ナル關係ヲ有スルモノナルコトヲ述ヘ又法律生出ノ原由ハ從來ノ歴史ト現時ノ氣運トニ依ラサル可カラス其歴史ト氣運トヲ察スルハ実研者ノ職務ニシテ其歴史ト氣運トニ付テノ關係ヲ論スルハ政略学ニ属スルヲ以テ茲ニ贅セストノ一語ヲ以テ過去現在ノ法律其者ノ如何ヲ論スルト將來ノ法律制定ノ如何ヲ論スルトハ別段ノ問題タル可キコトヲ暗示セリ法律哲学大意ヲ一読シタル者ハ必ス法律ノ原理ハ歴史のノ進歩ニ外ナラサルコトヲ争ハサル可シ然レトモ単ニ歴史ノ旧套及ヒ慣習ノ結果ノミニ一任スルハ歴史のノ陳腐説ニシテ頑固党ノ口実トスル所ニ過キサリナリ何トナレハ時世ノ變遷ハ必スシモ進歩ノミニ非ス退歩スルコトナキヲ期ス可カラス仮令退歩スルコトナキモ他ノ進歩ニ伴フコト能ハサルトキハ比較的ノ退歩タルコトヲ免カレス徒ニ其退歩ヲ見テ是レ歴史ナリ慣習ナリト謂フカ如キハ未タ歴史の学説ノ何者タルコトヲ知ラサル者ナリ

近世ノ哲学者事物ノ原理ヲ説クニ必要ノ二字ヲ以テ之ヲ包括ス故ニ法律モ亦必要ヨリ生スルトノ一語ハ世人ノ流伝スル所ト為リ普通ノ必要ナル熟語ト同視シ法律ヲ議スルニ当リ必ス必要ナキニ法律ヲ作ル可カラストカ必要ノ生シタル後法律ヲ作ル可シトカヲ論スルコト屢ナリ其論旨ノ是非ハ

茲ニ之ヲ弁スルコトヲ要セスト雖モ哲學的ノ必要ナル熟語ヲ以テ有用ノ意義ニ用フル必要ナル普通用語ト混同シタルモノ、如シ法律モ亦哲學的ノ熟語ナル必要ヨリ生出スルモノナルコトハ論ヲ待タスト雖モ法律中ニハ必スシモ良法ノミニ非ス惡法モ亦有用ナリトハ論シ難カル可シ

哲學上法律ハ必要ヨリ生出スルコトハ法律ハ歷史上ヨリ生出スルコトノ解義ニ外ナラス其必要トハ因アリテ果ヲ生スルト謂フニ同シ良法モ惡法モ此解義ニ洩ル、コトナカル可シ単二法律ノミナラス事々物々果アリテ因ナキモノハ非サルナリ春花ノ雨ニ綻ヒ風ニ散ルモ歴史ナリ秋草ノ露ニ滋リ霜ニ枯ルモ歴史ナリ若シ人類ヲシテ風霜ノ下ニ暴露セシメハ一夜ニシテ草花ト同一ノ歴史ヲ目撃スルコトヲ疑ハサルナリ然レトモ犬モ能ク棒ヲ避クルヲ知り鳥モ砲声ノ間ニ翔ラス況ンヤ優等ナル經研智識ヲ有スル人類ハ大厦高樓ニ夏ノ熱ヲ避ケ暖炉障壁ニ冬ノ寒ヲ防ク等決シテ草花ノ如ク自然的ノ歴史ト同視ス可カラサルモノアリ是ヲ新因ヲ以テ旧因ヲ壓倒スルノ法トス時期猶ホ早シト謂ヒ時期既ニ晚シト謂フモ新因ノ旧因ヲ壓倒スルニ不相当ナルニ外ナラサルナリ

西哲曰ク人若シ事々物々ノ原因關係ヲ充分ニ探認スルコトヲ得ルトキハ偶然及ヒ可成的ナル熟語ハ不用ニ屬スルニ至

ル可シト蓋シ偶然及ヒ可成的ナル熟語ヲ用フルハ經研智識ノ不充分ナル者ニシテ智愚ノ程度ハ原因關係ヲ識認スルノ深淺ヲ以テ尺量スルヲ得ヘキナリ

政略家ノ奧義ハ単ニ新因ヲ製出シテ旧因ヲ壓倒スルニ在リ一言ニシテ之ヲ說示スルハ甚タ容易ナリト雖トモ其実行ノ困難ナルハ勿論ニシテ事物ノ大小難易ニ因リ僅ニ一日ニシテ結果ヲ見ル可キモノアリ五年十年ニシテ結果ヲ見ル可キモノアリ五十年百年ニシテ猶ホ結果ヲ見ル可カラサルモノアリ故ニ頑固党ハ歴史慣習ニ制セラレテ新因ヲ製出スルヲ知ラス急劇党ハ歴史慣習ヲ顧スシテ新因ノ熟達ヲ待ツ能ハス兩者共ニ欠ル所アリ真正ノ政略家ナル者ハ因果ヲ運用スルニ最巧ナル者ニ外ナラサルナリ

ホルチエンドルフ氏曰ク政略ナルモノ果シテ賭博ト同一ナルトキハ一箇ノ学科ト為ス可カラスト雖トモ決シテ然ル可キモノニ非ス云々予以為ラク賭博ト雖トモ原因ナクシテ結果ノ生ス可キモノニ非ス故ニ一概ニ論シ難シ若シ賭博ニ巧拙アリトスルトキハ必ス研究ノ材料タルコトヲ得ヘキモノナリ

政略ニ付キ法律トノ關係及ヒ道德トノ關係等政略學ノ本文ヲ論スルハ他日ニ讓ルノミナラス本書ハ単ニ政略ノ如何ナ

ル原理ノモノナルカヲ略述スルニ過キスシテ著者ノ本旨ハ直ニ新法実施ノ政略問題ニ論究スルニ在リ

新法即チ民法商法ニ付キ三箇ノ主唱者アリ第一ハ新法断行論者第二ハ新法延期論者第三ハ新法廃止論者はナリ然レトモ第三論者ハ時情ノ未タ動カス可カラサルコトヲ知テ第二論者ニ同意シ修正ヲ名トシテ延期説ヲ賛成スルニ過キサルノミナラス其員數僅少ニシテ公然ナラサルニ因リ本書ニ於テハ単ニ断行論者ト延期論者トニ付テ論述ス可シ

断行論者曰ク新法ハ法理ニ悖ラス慣習ニ適シタル完全無欠ノ良典ナリト延期論者曰ク新法ハ法理ニ悖リ慣習ニ適セサル陳腐破壊ノ闕典ナリト其口実ハ種々ナリト雖トモ共ニ絶對的ノ反論ニシテ断行論者モ多クハ吾輩ノ平素親愛ナル學識アル高尚ノ士ナリ延期論者モ亦多クハ吾輩ノ平素親愛ナル學識アル高尚ノ士ナリ其相劣ラス相屈セサルハ勿論ナリト雖トモ互ニ事情ヲ斟酌シテ罵詈輕蔑ノ醜体ヲ顯出スルニ至ラサルコトハ吾輩ノ希望ニ堪ヘサル所ナリ

吾輩ハ断行延期共ニ利害得失アルコトヲ信スル者ナリ唯其利害得失ノ度ヲ尺量シテ自説ヲ決スルニ過キサルナリ

世豈ニ完全無欠ノ良典アランヤ況ヤ民法商法ノ如キ大典ニ至テハ多少ノ欠点ナキヲ期ス可カラス断行論者ノ説非ナリ

然レトモ兩三年ノ延期ハ此大典ヲ修正シテ其欠点ナキニ至ラシムルヲ得ヘキ乎愚考ニテハ決シテ然ラス修正ニ随テ欠点ヲ生シ異論百出更ニ延期ヲ為サ、ル可カラス修正ハ延期ト為リ延期ハ又修正ト為リ法典ノ完全無欠ノ期アル可キモノニ非サルナリ然則断行論延期論共ニ貫徹セスシテ目下最モ少数ナル廃止論ノ実効ヲ生セシムルニ至ル可シ是レ吾輩ノ断行論ニ左袒セサルコトヲ得サル所以ナリ

延期論者曰ク新法ハ世論未タ協ハサルニ政府ハ断然之ヲ發布セラレタリ云々ト若シ成文ノ法典果シテ有益ナリトスルトキハ吾輩ハ却テ国会開設前之ヲ發布シタルノ英断ニ感服セサルヲ得ス蓋シ独裁政治ハ美事ヲ為スコトモ容易ナリ随テ弊事ヲ行フコトモ亦容易ナリ維新以來版籍奉還地租改正等普通千百年ヲ待テ施行スヘキコトヲ一瞬間ニ施行シタルハ枚挙スルニ暇アラス就中五法發布ノ如キハ新造ノ立憲國ニ於テ容易ニ見ル可キコトニ非ス試ニ現今本邦議院ノ情況ヲ見ヨ監獄費國庫支弁説ノ如キ學說上實務上共ニ適當ナルノミナラス其実減税ニ異ナラサル一小案ト雖トモ容易ニ議院ヲ通過セサルニ非スヤ然レトモ是亦因ナクシテ此果アルモノニ非ラサルナリ

延期論者曰ク新法ハ個人主義ニ出タルモノニシテ國家主義

二取レル欽定憲法ニ抵触スト此一言ハ無学無経研ナル老朽生ヲ驚カスニ足ルノミニシテ此ノ如キ事例ヲ民法ニ徴セント欲スルハ思ハサルノ甚キモノト謂フ可シ吾輩モ亦国家主義ヲ取レル者ナリト雖モ實際個人ノ利益ハ国家ノ利益ニ讓ラサル可カラスト主張スルマテニシテ之ヲ再言スレハ国体ノ継続ヲ妨ケサル限りハ個人ノ自由ヲ許サンコトヲ希望スルモノナリ論者ト雖モ民法中人事編以外ニ於ケル個人間ノ売買契約等ニ付テハ国家主義ノ売買トカ個人主義ノ契約トカヲ區別スルノ必要ナカル可シ唯人事編ニ於テ本邦ハ二千年五百年來独裁政治ノ国体ナリ随テ家政モ亦戸主ノ專制ナリ其專制權ヲ減殺スルハ国体ニ戾ルモノナリト論究スルニ至レリト雖トモ我輩聖ナル天皇陛下ハ夙ニ中興ノ大業ニ勉セラレ文明ノ事例ヲ照覽セラレ憲法ヲ發布シテ我輩臣民ニ参政ノ大權ヲモ付与セラレタルニ非スヤ我輩臣民ハ此意ヲ体シテ父夫ハ成ル可ク妻子ニ自由ヲ与へ戸主ハ成ル可ク家族ニ独立ヲ勸メサル可カラス是レ国家ノ經濟其他發達ノ時情ニ適スルハ喋々スルヲ要セサルノミナラス独裁政体ヨリ立憲政体ニ移リタル沿革ニ伴フ可キ当然ノ結果ト謂ハサル可カラス然ルニ我輩臣民ハ憲法ノ特恩ニ浴シナカラ一家ノ整理ニ至テハ依然トシテ家長專制主義ヲ継続セント欲ス

ルカ如キハ却テ憲法ノ旨趣ニ抵触スルモノト謂ハサル可カラサルナリ

延期論者曰ク新法ハ天然法ノ原則ヲ主義トシ新学説ノ主義ニ背反スト是レ或ハ然ラン吾輩ハ天然法攻撃ノ主唱者ヲ以テ自ラ任スル者ナリ嘗テ法律哲学大意ニ於テ之ヲ説明セリ然レトモ是唯学説問題ニシテ法典編纂者ノ学説ニ侵入スルハ立法上ノ本務ニ非ス立法者ハ唯法文ニ現出スル事項ノ可否ヲ判定スルニ止マラサル可カラス猶ホ行政上神仏ヲ信シテ惡事ヲ為サ、ルモ孔孟耶穌ヲ信シテ惡事ヲ為サ、ルモ又全ク信スル所ナクシテ惡事ヲ為サ、ルモ刑罰ニ触レサル以上ハ孰レモ均ク惡人視セサルカ如シ其信スル所ノ如何ヲ推究スルハ政略家ノ本務ニ非サルナリ

吾輩ハ同僚ト共ニ商法民法ニ修正説ヲ調査シタル者ナリ吾輩ハ絶対的之二ノヲ非難スルモノニ非ス吾輩ト雖トモ夥多ナル条項中一二ノ論ス可キモノナカラシヤ然レトモ右ヲ主張スル者アルトキハ亦左ヲ主張スル者アルハ人事ノ免カレサル所ナリ況ヤ此ノ如キ未曾有ノ大事業ナルヲ以テ學者モ成ル可ク解釈ヲ穩當ニシ法官モ成ル可ク適當ヲ円活ニスルトキハ別段断行ノ不都合ヲ見サルコト疑フ容レサルナリ
本書ハ単ニ大体ニ就テ説明スルヲ主旨トシ些末ノ条項ニ付

テハ既ニ延期論者ト断行論者トノ互ニ弁解スル所アルヲ以テ茲ニ贅言スルヲ要セサルノミナラス各論者ハ少ク宇内ノ大勢ト国情ノ将来トヲ觀察セサル可カラス維新後二十五年ノ光陰ハ通常ノ歴史ニ比較シテ数千百年ノ進歩ニ相当ス可キ時期ナルニ殆ト二十年來注入シタル新法実施ノ原因ヲシテ予想ノ結果ヲ生セシムルニ至ラサルハ政略家ノ徒ニ看過スヘキ事ニ非サルナリ前年国臣留學中大隈伯ノ負傷ニ罹リ条約改正ノ談判中止ト為リ新法ノ發布モ覺束ナク総テ国歩洪滞ノ風評アルニ際シ山田伯ニ往復シタル一書アリ左ニ掲載シテ所見ヲ吐露ス

本朝政變ノ風潮ハ終ニ国臣ヲシテ本論ヲ艸セシムルニ至レリ曩ニ国臣書ヲ呈スルニ当リ常ニ老成ノ口実ヲ仮用シテ曰ク實際ニ徵証セサル可カラス學說ヲ輕蔑ス可カラス云々其意ヲ推究スルトキハ新法ノ發布ハ輕忽ニス可カラス容易ニス可カラスト謂フニ外ナラスシテ恰モ新法發布ノ反对論者ニ似タルモノアリ蓋シ當時ノ政策ハ既ニ新法發布ノ方針ニ確定シタルモノト信シタルヲ以テ成ル可ク良好ノ結果ニ至ルヲ希望シタルニ過キス今日ハ既ニ然ラス予想シタル法律ハ未タ一モ發布ニ至リタルモノナク進取ノ政策ハ世論ノ混雜ト共ニ亦混雜ヲ免カレサルモノ、如シ是レ国臣本論ヲ草

スル所以ニシテ其說タルヤ或ハ本邦ノ実務家及ヒ學說家ノ論スル所ト非常ノ差異アルニ驚クモノアラン唯閣下一読ノ後ニシテ暴論タルノ評ヲ賜ハ、幸甚トス本論ハ之ヲ分テ數箇ノ問題トス第一本邦ノ国形及ヒ人情第二本邦ノ法律慣習及ヒ現行法律ノ情態第三新法發布ヲ否トスル者ノ種類第四法律改正ノ方針第五新法發布ノ決定基礎是ナリ

第一題 本邦ノ国形及ヒ人情 本邦ノ国形ハ東隅ノ一孤

島ニシテ之ニ近接スル各國ハ亞洲東南ノ未開國ナリ島地ナルニ因リ古代他國トノ交通甚々頻繁ナラス況ヤ近代ニ至ルマテ鎖港ヲ以テ一國ノ定論ト為セリ近接ノ各國総テ未開國ナルニ因リ従前多少ノ交通アリタルニモ拘ハラズ法律上ノ基礎トシテ著明ナルモノアルヲ見サルナリ支那朝鮮トノ交通ハ朝廷ノ儀式仁義忠孝ノ教育其他ノ文物多少見ル可キ者ナキニ非スト雖モ法律ニ至テハ民ヲシテ知ラシム可カラサルノ主義ヲ固守貫徹シテ偶ム公法中幾分ノ成規アルモノト雖モ亦官吏ノ專断ト長者ノ全權トニ放任シ私法ノ如キハ嘗テ見ル可キ者ナシト云フモ不可ナカル可シ生理学上ニ於テ人類ノ容貌体格ハ概ネ其父祖ノ遺伝ニ依リ心理学上ニ於テ人類ノ賢愚能否ハ毫モ其父祖ノ遺伝ニ非ストノ說ハ今日ノ

公論タルニ似タリ是レ政略学上ニ於テ最モ注意スル所ニシテ外部ノ發達ト内部ノ發達ト共ニ之ヲ天然ニノミ放任ス可カラサルナリ人皆曰ク本邦人ハ模擬ノ才ニ長シテ發明ノ才ニ乏シト是レ或ハ然ラン然レトモ總テ學術ハ模擬ヨリシテ發明ニ至ルモノニシテ定石ヲ知ラサル基客ノ發明シタル名手アルコトナク一流ヲ發明シタル劍客ハ必ス其師ノ奧義ヲ極メタル者ナル可シ鉄道電信ノ發明ハ究理ノ原則ヲ知ラサル野蠻國ニ起ルモノニ非ス最モ本論ノ主眼トスル文明ノ法律ハ二千年前ヨリノ羅馬其他ノ模擬物タルニ過キササルナリ國疆小ナレハ人物多カラス交通狹ケレハ見聞少キハ自然ノ數ニシテ本邦ハ古來之ヲ兼タル而巴ナラス主トシテ本邦ノ文明ヲ誘導シタル儒仏モ亦定命指示ノ道德主義ニシテ儒者曰ク聖人ノ一言ハ天地ヲ貫キ古今ニ亘リ変ス可カラス動カス可カラス之ニ反スル者ハ異端ナリ異教ナリ云々仏者曰ク仏ハ唯我独尊神通自在之ニ反スル者ハ邪宗ナリ邪法ナリ云々儒仏ノ教統既ニ數千年ヲ經過シ千万人ノ学説ニ依テ維持セラレ億兆ノ衆民ニ依テ信崇セラレ苟モ之ニ反スル者ハ異端異教邪宗邪法ノ公認ヲ受ケ単ニ社会ノ排斥ノミナラス刑罰ヲ免カレサルニ至ル者アリ又政事上ノ沿革ヲ回想スルニ中古政權ノ武門ニ屬スルニ至リ干戈繼續武人ト愚民トノ關係

ノミニシテ文事ハ単ニ僧侶ノ翫具タルニ止リ徳川氏ノ治世ト雖モ民ヲ愚ニスルノ筆法ハ常ニ俗吏ノ重要ナル術策ニシテ異論奇説ハ既ニ習慣刑法ノ罰例タリト謂フモ可ナリ本邦ノ邊小ナルヤ斯ノ如ク外交ナキヤ斯ノ如ク教風タルヤ斯ノ如ク政治タルヤ斯ノ如クニシテ日本人ハ發明ノ性質ニ乏シトスルハ少ク嚴酷ナル評タルヲ免カレス況ヤ斯ノ如キ時代ニシテ猶ホ高僧大儒各獨立一派ヲ設立シタル者ニ乏シカラス且其教ノ善惡ニ拘ハラズ忠孝節義ノ日本固有ノ質ヲ補助シ武人志士ノ間ニ一種特色ノ氣風ヲ養成シ人心集合ノ巢窟ナル帝室ノ威光ニ映射セラレ万世不易ノ國体ヲ醸出シ世官世祿ノ政習ニシテ何ソ久ク天下ノ英氣發達ヲ仄伏スルコトヲ得ンヤ或ハ勤王攘夷ノ論説ト為リ或ハ干戈牢獄ノ犠牲ト為リ終ニ王政維新ノ大業ヲ起スニ至レリ維新前後自然ノ勢變ヨリシテ西洋各国トノ交際漸次頻繁ニ至リ事々物々彼巧ニ我拙ク彼優リ我劣ルノ感想ヨリシテ我ヲ忘レテ彼ヲ学ヒ我ヲ捨テ、彼ヲ取ルニ至レリ故ニ現時古老ノ洋学者ト雖モ一学科ヲモ專修シタリト謂フニ足ル者ナク少年生徒ノ纔ニ學士タリ留学生タリトテ朝野ニ傲然タルハ實ニ愷笑ニ堪ヘサルコトナリト雖モ之ヲ以テ本邦人ハ模擬ノ才ノミニシテ發明ノ才ニ乏シトスルハ亦少ク嚴酷ナル評タルヲ免カレサル

ナリ維新前ノ洋学者ハ其研究ノ困難ニ至テハ実ニ想像ニ上ラサル者アル可シ其學術ノ浅深ヲ論スルヲ要セス維新後僅ニ廿余年人生年齢ノ一部トシテハ久カラサルニ非スト雖モ一国新造學術ノ年限トシテハ最モ短少ト謂フ可キナリ然ルニ其文明進歩ノ過度ナルハ古今各国其例ナカル可シ抑モ本邦ノ国形上前代外国ト交通ノ不便タル海洋ハ今日ノ至便トナリ前代他国ニ關係ナキ東隅ノ一孤島ハ今日欧米間ノ航路ニ当リ亞洲海岸ノ諸国ヲ扼シ本邦ノ人情ハ古來ノ政事教育ノ羈馬ヲ脱シ駿々トシテ止ルヲ知ラス条約改正論ハ今回偶然ノ中止ニ拘ハラズ直ニ再燃ス可キハ言ヲ待タズ嗚呼大日本帝國ハ武略政略商略等ヨリ觀察シテ法律ハ如何ナル結果ニ至ラシムルヲ得策トスル乎後題ト共ニ之ヲ熟思セサル可カラス

第二題 本邦ノ法律慣習及ヒ現行法律ノ情態 本邦ノ上

古ハ之ヲ不問ニ置キ中古ヨリシテ徳川氏ノ末ニ至ルマテ民ヲシテ知ラシム可カラサルノ主義ハ依然トシテ變更スルコトナク時ニ内規内定ノ如キモノナキニ非スト雖モ未タ全國一定ノ成法トシテ見ル可キモノアルヲ知ラス徳川氏ノ百箇条其他裁判例ノ如キ之ヲ今日ノ成文法ト全視ス可カラス人

必スシモ此說ヲ非トセサル可シ然則慣習法ハ如何トノ問ニ對シ国臣ハ断然今日ニ於テ本邦ニ慣習法トシテ確言スルニ足ルモノナシト答フルノ外ナシ此一言ハ今日法律ノ實際家ト自称シ学者ト自任スル者モ亦一驚スルナラン此輩ノ誤解ニ付テハ第三題ニ譲リ茲ヨリ本邦ニ於テ現今慣習法トシテ確言スルニ足ルモノナキ所以ヲ弁ス可シ独逸国法ノ學說ニ依ルニ独國ニ於テ国法行政法ノ法律学科ト為リタルハ行政裁判所ノ設立ヨリ始マル何トナレハ其設立以前ニ於テハ今日国法行政法ノ区域ニ屬スル事件ハ国君又ハ官吏ノ專斷ニ屬シタルヲ以テ之ヲ法律視ス可カラス行政裁判所ノ設立アリテヨリ始テ之ヲ法律ニ照シテ裁判スルモノト為レリ云々然レトモ国臣ハ此語ヲ引用シテ本邦ハ元來長上專斷主義ノ國風ナリ確乎タル法律ト認ム可キモノナシトノ論理上ヨリ事實ヲ抹殺セント欲スル者ニ非ス專斷主義ト雖モ徒ニ空ニ向テ発砲スルカ如キモノニ非ス又時ニ名君賢吏アリ必ス幾分ノ的度ヲ生スルハ当然ナリ国臣本邦ニ於テ今日慣習法トシテ確言ス可キモノナシトスルハ第一中世ヨリ土豪割拠就中徳川封建ノ世ニ当リ通俗三百諸侯ト称シ加之旗下アリ分地分領アリ本邦ハ殆ト數百ノ各小国ヨリ成立タルモノト異ナラス且一般ノ法律制度ハ總テ各聯邦ノ主權ニ屬シタルヲ

以テ其例規又ハ裁判事例ノ如キモ亦紛乱錯雜単二旧江戸ノ旧例ハ全国ニ適施ス可キモノニ非ス第二當時法律学者アリタルニ非ス法律ハ勿論裁判ニ関シタル書類ト雖モ完全ナルモノアルニ非ス官衙ノ処分モ区々タリシヲ以テ偶々老年ノ旧役人アルモ之ヲ弁スル能ハス固ヨリ斯ノ如クナルヲ以テ其他ノ人民モ亦某ハ斯ノ如キ処分ヲ受ケタリ某ハ云々ト纒ニ記憶スル者モ稀ナルコトニシテ慣習ノ名義ヲ付スルニ足ルモノナク到底調査類集ノ道ナカル可シ国臣幼時民間ニ生長シ民政官吏ニ接近シ農商ノ情態小民ノ辛苦貧困救助租稅徵収等之ヲ目撃シタルコトアリ聊カ之ヲ弁スルモ敢テ難シトセサルナリ然レトモ今日民法又ハ商法中ニ編入ス可キ慣例アリシヤ否ヲ回想スルニ最モ世人ノ蝶々スル財産相続婚姻等ノ人事ト雖モ殆ト父權夫權等長上權ニ委スルモノニシテ毫モ確定シタル条規トシテ見ル可キハ甚タ稀ナリ其他單ニ一笑ニ付ス可キモノ而已ニシテ慣例トシテ毫モ記憶ニ存スルモノナシ其記憶ニ存セサルハ国臣ノ無學無識ト謂フノ外ナシト雖モ他人モ亦或ハ然ラン若シ果シテ一般人民ノ記憶ニモ存セサルモノナルトキハ慣習ニ非サルナリ第三王政維新後務メテ旧規古例ヲ一掃シ老官俗吏ヲ排斥シ昨日ノ漢学生今日ノ洋学生明日ハ共ニ高官長吏ト為リ唯条理便利ヲ

根拠トシテ法律規則ヨリシテ政務裁判等ニ至ルマテ朝變暮改ノ評亦空シカラス既ニ廿余年ノ久キヲ経タリ故ニ現行法律ノ情態ハ如何ナルモノ乎ヲ分析スルトキハ布令訓令指令ハ外国法律就中仏国法律ノ原則ニ基カサルハ殆ト稀ナリ法律顧問ハ外国人就中仏人ニ非サルハ殆ト稀ナリ實際執務ノ法官ハ旧弊一掃ニ從事シタル書生ニシテ偶然實際ノ必要ヨリ法務ニ充ル所ノ現今ノ所謂老成官吏及ヒ司法省ニ於テ數回募集養成シタル仏国法律研究生徒ニシテ将来ノ望ヲ屬ス可キ現今ノ所謂壯年官吏其他或ハ好機ヲ以テ採用セラレ或ハ他ノ学校ヨリ拔擢セラレ或ハ試験ニ依リ及第シタル者等アリト雖モ此二種ノ官吏ト全種類ノモノタルニ外ナラス斯ノ如キ現行法律ノ状態ナルニ依リ外国法律就中仏国法律コソ日本現行慣習法ナラメ否殆ト本邦現行成文法ノ位置ヲ占ムルニ至レリ然レトモ今日實際ニ於テ新法ハ發布ス可カラズ慣例ハ保存セサル可カラスト主張スル者アリ其慣例ト認ムルモノハ何ソヤ後題ニ於テ之ヲ弁ス可シ

第三題 新法發布ヲ非トスル者ノ種類 新法ヲ非トスル

者ヲ三種類ニ區別スルコトヲ得ヘシ第一實務ニ当ル法官第二法律学研究生第三一般法学ヲ修メサル者はナリ第三者ハ

殆ト全国ノ大部ヲ占ム西洋各国モ亦然リ猶ホ新婚前ノ処女ノ如ク徒ニ人生ノ必要タルヲ知テ未タ其甘辛ヲ知ラス其躊躇スルモ亦宜ナリ唯詳説セサル可カラサル者ハ第一者ト第二者トニ過キス抑モ他人ノ心事ニ侵入シテ事ヲ論スルハ少シク堂々タルニ乏シト雖モ政略学上已ヲ得サルノ論点トシテ推究セサルヲ得ス固ヨリ一人一個ニ就テ論スルニ非ス唯茲ニ摘発セント欲スルハ何人ト雖モ自個ノ利益ノ主点ニ向テ多少偏倚スルコトヲ免カレス是レ一般人情ノ常トシテ看恕ス可シト雖モ之ヲ觀察セサルヘカラス第一者就中老成法官ハ法学ヲ修メテ実地ニ就キタル者ニ非スト雖モ数年ノ経研ニ於テ此事實ハ斯ノ如ク処分シ彼事件ハ斯ノ如ク判決ス可シト成法ナキニ乘シテ自ラ立法官ノ位置ニ立チ腦中多少ノ法例ヲ編纂シ之ヲ實際ニ適用ス故ニ其認メテ慣習法ト為スハ真実其地方ニ伝来シタル慣習ヨリモ自ラ編纂シタル腦中ノ法例コソ夥多ナル可ケレ若シ大岡時代ナランニハ此方法ヲ以テ法官ノ適任トスルモ妨ナシト雖モ人民ヲシテ裁判ニ先ツテ是非曲直ヲ予知セシムルヲ勉ムル今日ニ於テハ各法官ノ各立法ヲ排却セサル可カラス又老成法官ハ多年地方ノ人民ニ接シ其識能ノ程度ト新法ノ程度ト一致セサルヲ感想スルコト少カラサル可シ是レ至当ノ懸案ニシテ立法官ノ

最モ注意ス可キ所ナリト雖モ後題ニ於テ之ヲ弁ス可シ第二者就中外国法律研究生ハ官ニ在ルト野ニ在ルトニ拘ハラス概ネ現今ノ壮少ニシテ固ヨリ本邦慣習法ノ如何ヲ研究シタル者ニ非ス固ヨリ未タ實際ニ熟練シタル者モ稀ナル可シ唯外国ニ於テ慣習ヲ持續シ猥ニ法律ヲ改正セサルコトヲ以テ根拠トスルニ過キス此点ニ付テハ世人ノ詳知スル所ナルヲ以テ更ニ贅セス若シ今日新法ヲ發布スルニ至ラハ老成法官ハ幾分ノ老練ヲ失ヒ新任法官ノ論説ニ讓ル如キコトモアリテ到底従前ノ活潑ヲ制限セラル、ニ至ル可シ又外国法律研究生モ徒ニ外国法律ノ引証ノミニテハ實際上ハ勿論学説上ト雖モ困難ナシトス可カラス大学ノ法律教科ト雖モ必ス一変スルニ至ル可シ左ナキトキハ支那人ニ向テ洋服ヲ強売セントスルカ如キ觀相ヲ顯出ス可キナリ蓋シ第一者第二者共ニ幾分ノ不快ヲ感スルコトアルモ本邦法律ノ位置ヲ占ムル者ハ現今将来此等ノ者ニ外ナラス一時ノ困難ハ進歩ノ兆候トシテ忍耐スルコト希望ニ堪ヘサルナリ国臣ト雖モ外国ニ在テ幾分外国ノ法律ヲ研究シタルトキハ従前ノ如ク外国ハ云々ナリトシテ附会ノ説ヲ吐キ歲月ヲ経過スルハ実ニ氣樂ノ至ナリ然レトモ其氣樂ハ本邦法律ノ進歩セサル所以ニシテ少シク遠慮セサル可カラサルナリ

第四題 法律制定ノ方針 国臣十余年来本邦老法官ノ法

談ヲ聴ク皆曰ク慣習ニ根拠セサル可カラス事ニ先ツテ法ヲ設ク可カラスト既ニ幾回国臣ノ耳朶ニ触レタルヤヲ知ラス外国ニ於テ有名ナル学者ノ説モ亦大同小異ニシテ偶々本邦新法草案ヲ評スルニ当リ本邦ノ進歩ヲ称賛シ而テ其新法草案ヲ歐洲法律ノ訳本ナリ写本ナリトシテ非難スル者アルヲ免カレス国臣是等ノ者ノ言フ所ヲ信セサルニ非ス実ニ本邦ノ新法ニ於テハ本邦ノ慣習法ヨリ生出シタリト認ム可キモノ稀ニシテ総テ歐風ノ原則ニ依ラサルモノナシト謂フ可キナリ歐洲法律ノ訳本ナリ写本ナリト謂フモ亦可ナリ然レトモ国臣ハ其説ノ取ル可キコトアルニモ拘ハラズ今日本邦ノ国情ニ於テハ之ヲ採用スルニ足ラサルコトヲ信ス是レ必ス衆人ノ一驚スル所ナラン蓋シ一國文明ノ進歩ハ常ニ徐々タルモノニシテ決シテ急進過激ヲ以テ即成スルモノニ非ス仏國革命アリタリトテ其人民ハ革命前ノ人民ニシテ其事物モ亦革命前ノ事物ナル可シ而テ革命ノ為メ破壊シタル社会ノ秩序其他ノ事物ハ容易ニ回復ス可カラス総テ歐洲近來ノ文明ハ歴史上徐々トシテ進歩シタルモノナリ然ルニ本邦ノ文明ハ歐洲ノ文明ヲ追歩スルモノト雖モ頗ル事情ノ異ナルモノアリ幕府三百年間ノ封建政治ハ世祿世官ニシテ頗ル非難

ス可キ者ナキニ非スト雖モ幾十萬ノ士族ハ其本職タル武ヲ用フルニ所ナク游民必スシモ無事ヲ以テ快トスル者ニ非ス其学フ所ノ文武其守ル所ノ節義ハ恰モ西洋ノ文明ヲ取受スルノ資格ト為リ王政復古シテ民心ノ帰スル所ヲ知ラシメ天下靡然トシテ文明ノ方針ニ傾向シ而テ百事ノ改革ハ空想ヨリシテ生出スルニ非スシテ多年西洋各国ノ実地ニ経歴スル所ノモノナリ譬ハ汽車電信等ヲ發明スルハ容易ノ事業ニ非ス必ス徐々タル氣運ニ依ルモノナリ然レトモ既ニ發明シタル汽車電信ヲ使用スルハ必スシモ徐々タルヲ要セサルナリ若シ本邦ノ文明ト歐洲ノ文明ト同等ノ位置ニ在ルトキハ假令幾回ノ改革ヲ行フトモ決シテ急速ナル進歩ヲ見ル可キモノニ非ス前ニ述ヘタル老法官等ノ説ハ法律完全ノ後ニ於テハ至当ナリ文明ノ事物具備シタル後ニ於テハ必ス然セサルヲ得ス本邦ノ如キ慣習法ト認ムルニ足ルモノナク且今日ニ生出セサル事項ト雖モ必ス明日ニ發生ス可キ事項又ハ發生セシムルヲ要スル事項ハ之ヲ予定セサル可カラサルハ近時ノ事例ニ徴シテ判然タリ又外國学者ニシテ西洋文明進歩ノ沿革ノミヲ視テ尺度トスルハ不注意ナリ不研究ナリ其称賛スル本邦ノ進歩ハ西洋ノ文物ヲ輸入シタル為メニ非スヤ本邦新法ノ歐洲法律ノ訳本又ハ写本タルハ其輸入ノ方法ニ非

スヤ況ヤ其文明ト称スル各国ノ法律ハ元来羅馬法其他ノ訳本又ハ写本ニ非スヤ否独逸国其他ニ於テ今日猶ホ羅馬法ノ原本ヲ施行スルニ非スヤ既ニ本邦ニ於テ文明ノ方針ニ傾向シタル以上ハ仮令旧時ノ慣例猶ホ存スルアルモ今日文明ノ程度ト適合セス到底其完全ニ至ルヲ待ツ可カラス又本邦人民進取ノ氣象ハ決シテ之ヲ待ツコト能ハサルナリ若シ国臣ノ言フ所ヲ信セスンハ試ニ本邦老法官又ハ其他ノ者ヲシテ仮令一地方ノ慣習法タリトモ其完全ナルモノヲ編纂シ是則某地方ニ施行セラル、法律ノ情態ナルコトヲ明言セシムルコトヲ得ヘキ乎国臣決シテ之ヲ信スルコト能ハサルナリ本邦ニ成文法ナキヲ以テ英国ト比較スル如キハ迂闊ノ極ト謂フ可シ猶ホ終リニ一言スヘキハ欧洲各国ニ於テ文明ノ進歩ニ從ヒ慣習法ノ減却スルハ實際ト學說ト共ニ信認スル所ナリ何トナレハ一事ヲ奨励シ一事ヲ命令シ一事ヲ禁止スルニ當リ自然慣習ノ生スルヲ待ツ如キハ今日文明ノ活動ニ適セサルナリ是故ニ本邦法律創定ノ方針ニ付テハ国民進歩ノ程度ヲ計リ幾分事ニ先ツテ誘導スルコトニ傾向セサルヲ得ス国民ノ進歩ハ猶ホ流動物ノ水平ヲ求ムル如ク到底西洋ノ文明ト平均ヲ得サル間ハ急激ナル可シ法律モ亦西洋ノ法律ト權衡ヲ得サル間ハ到底完全ヲ期スル能ハサル可シ從來法律

ノ朝令暮改ハ必スシモ当局者ノ罪ニ非スシテ法律進歩ノ速力ナリ

第五題 新法發布ノ決定基礎 本題ヲ論スルニ當リ先ツ

間接ナル關係ヲ有スル本邦政体ノ如何ヲ弁セサルヲ得ス抑モ本邦ハ立憲政体ナリト雖モ現今本邦ニ於テ汎稱スル責任内閣即チ政黨内閣ナル乎非責任内閣即チ非政黨内閣ナル乎ハ世論ノ蝶々スル所ナリ政黨内閣ハ英国其他ニ於テ既ニ多年ノ經研ニ依リ其順序方法殆ト確定シタルモノトス唯其弊トスル所ハ内閣ノ更迭時ナラサルヲ以テ国民ハ政熱ノ為メ狂奔シ偏頗軋轢常ニ騷擾ノ景狀アルヲ免カレサル而已ナラス國是ハ一定ノ方針ニ向テ穎進スル能ハス文明及ヒ慣習其程度ニ達セサルトキハ非常ノ危險ニ陥ルコトナシトセス就中本邦ノ如キ封建ノ余情未タ全ク消滅セス議院ノ制度猶ホ未タ完全ナラス地ニ屬スルノ政黨ト人ニ屬スルノ政黨トノミナルヲ以テ党派ノ分裂取捨ス可カラス恰モ百鬼夜行ノ怪狀ヲ見ルニ至ル可シ又非政黨内閣ハ近時獨國ノ口実トスル所ナリト雖モ學說上及ヒ實際上未タ確定ノ永續基礎ヲ表出スルコト能ハス獨國ハ名君統出シ當百年代ノ名相三帝二經仕シ國民ハ淳朴ニシテ忠順ナリ国臣ノ最モ驚キタルハ老幼

貴賤ニ拘ハラス其政談スル所ヲ聴クトキハ政府党ニ非サル者殆ト稀ナリ仮令反対党ト雖モ彼侯ヲ除テ他ニ良相ヲ撰フノ念ナキモノ、如シ其一証トス可キハ「フリードリッヒ」先帝ハ自由主義ニシテ彼侯ノ主義ト反対スルヲ以テ世人ハ先帝即位後ノ政体ニ注目シタルニ豈ニ計ランヤ反対党ノ新聞ニ至ルマテ彼侯ヲ保助シ益ス位置ヲ固クスルニ至レリ斯ノ如キ国情ナルトキハ仮令内閣ノ如何ナル名義ノモノタリトモ国是ヲ継続スルニ毫モ困難ナカル可シ然レトモ其實際ヲ觀察スルトキハ数多ノ政党中自カラ政府党ト非政府党トアリ現今政略学ニ有名ナル伯林大学教授「トライチケー」氏ノ如キモ政府ニ於テ他党ノ人ヲモ採用ス可シトハ現今政府ニ希望スル三条件中ノ一ナリ抑モ政府ナルモノハ徒ニ名義ノミヲ以テ永続ス可キモノニ非ス必ス之ニ伴フ可キ有形無形ノ勢力ナカル可カラス仮令海陸軍警察等ノ有形力ハ政府ノ手ニ属スルモ無形力ナキトキハ一般国民ヲ制服スル能ハス況ヤ是等ノ有形力ハ何時ニテモ鋒ヲ逆ニスルノ例ナカルンヤ然則本邦ニ於テ政府政党外ニ立ント欲スルトキハ如何ナル方法ニ依リ無形力ヲ維持ス可キ乎ヲ推究セサル可カラズ本邦ニ於テモ亦独國ノ如ク名君賢相ノ威望ニ依リ無形力ヲ維持ス可キ乎我万世一系ノ帝位ハ固ヨリ万世ノ無形力ナ

ルハ言フ待タスト雖モ常ニ帝室ノ威望ニノミ依頼シ宸襟ヲ悩スハ臣子ノ分トシテ忍フ能ハサル所ナリ又賢相ナル者ハ徒ニ学識才智ノミヲ以テ直ニ其位置ニ適スル者ニ非ス然則政党外ニ於テ如何ナル種類ノ人物ヲシテ将来其位置ニ立タシム可キ乎実ニ重要ナル問題ナル可シ現今本邦ニ於テハ薩長ノ有形無形ノ勢力ニ依リ政府ヲ維持スルモノナリ藩閥政府ノ名実共ニ空シカラス国臣ハ決シテ藩閥政府ヲ好マス何トナレハ藩閥政府ハ所謂地ニ属スルノ政党ニシテ政略学上最モ嫌忌ス可キ危険ノ政党ナリ若シ該政党ニシテ勢力微弱ナルトキハ独國ニ於ケル「ポーランド」党英國ニ於ケル「アイラランド」党ノ如ク僅ニ自國ノ独立ヲ謀ル等ニ過キスト雖モ其勢力盛大ナルトキハ南北「アメリカ」党ノ如キ大波瀾ヲ生スルニ至ル可シ故ニ名義ノ如何ニ拘ハラス将来本邦ニ於テ薩長党ト名状ス可キ政党ヲ現出スルアラハ全国挙テ之ニ抵抗スルニ至ル可シ然レトモ国臣ハ藩閥党ノ名義ヲ嫌忌スルニモ拘ハラス一時藩閥政府ヲシテ持續セシメサルヲ得サルモノアリ何トナレハ前二述ヘタル如ク政府ナルモノハ必ス有形無形ノ勢力ヲ有セサル可カラス而テ之ヲ有スルモノハ藩閥党ニ外ナラス若シ現今藩閥党ナキトキハ全国四分五裂シテ言フ可カラサルノ惨状ヲ生出スルハ必然ナリ是レ

国臣ノ大ニ憂ル所ニシテ他人ノ藩閥政府ヲ嫌忌スルト少シク異ル所ナリト雖モ藩閥政府ハ到底永統セシム可カラス又永統セシメント欲スルモ能ハサルモノナリ蓋シ識ラス知ラス漸次其結果ニ至ラシムルハ治安ノ良策ニシテ其経歴中輿論ノ方針自カラ帰スル所アリテ一種ノ政体ヲ定ムルニ至ル可シ其間ニ於テ薩長ハ薩長ヲ以テ薩長ニ讓ラス薩長ハ薩長ヲ以テ天下ニ讓ルノ実ヲ表スルニ至ラシメサル可カラス若シ非政党内閣ヲ組織セント欲シテ直ニ独国ノ口実ノミニ做フトキハ国情ノ差異ヨリシテ大ナル齟齬ヲ生スルニ至ル可シ独国ハ非政党内閣ノ名義ニシテ其實ハ政党内閣ノ一種ナリ其一証トシテ徵ス可キハ独国今帝或ル人ニ語テ曰ク独国ノ政党ハ二種アルヲ要スル而已朕ニ從順スルモノト朕ニ反對スルモノト是ナリ云々之ヲ再説スルトキハ帝室党ト帝室反對党ト謂フニ異ナラス然則単ニ内閣ノミナラス帝室ヨリシテ一方ノ党派タルノ実跡ヲ顯ハスモノトス故ニ帝室党ノ勢力微弱ナルトキハ必ス一变革ヲ免カレス国臣一兩年以來學説上實際上非政党内閣ノ永統策ヲ探求スト雖モ未タ確定ノ原則ヲ発見スル能ハス蓋シ本邦ノ国情ヲ觀察スルニ政党内閣ノ政体ハ目下ニ於テ実ニ危険ナリ非政党内閣ノ政体ハ人ニ依テ永統スルモノニシテ理ニ於テ永統スルモノニ非ス

故ニ現今ノ政府ハ將來ノ政府ニ向テ危険ヲ予防シ善例ヲ相續セシメサル可カラス議院開設前ノ内閣ハ開設後ノ内閣ニ付テノ充分ナル準備ヲ為サル可カラス新法發布ノ如キハ其準備中ノ最モ緊要ノモノタル可シ良案ト雖モ時機ニ投セサルトキハ施行容易ナラストハ「グナイスト」氏ノ屢々其考案ノ採用セラレタルニ付テノ自負ノ語ナリ世人或ハ曰ク新法ノ發布ハ条約改正ニ牽連ス云々或ハ曰ク全ク牽連セス云々はレ共ニ非ナリ新法ノ發布ハ毫モ条約改正ニ牽連セス然レトモ条約改正ハ必ス之ニ牽連セサルヘカラス条約改正ハ単ニ国ト国トハ全等ナリ全權ナリト謂フ如キ單純ナル理論ノミヲ以テ遂得ヘキコトニ非ス假令遂得ルトモ遂得ルノ困難ヨリモ遂得タル後ノ困難ハ一層甚シカル可シ土留古政府ノ屢々内政改革ヲ約シテ約ノ如クナラサルハ各国ノ輕蔑ヲ免カレサル所以ナリ今也新法發布ノ時機ニ際シ種々ナル事情ニ妨碍セラレ遷延ノ傾向アルハ已ムヲ得サルニ出ルモノナル可シト雖モ新法ノ發布ハ些末ノ条項ニ拘泥シテ遷延ス可キ時機ニアラス単ニ一国將來ノ利益ト不利益トヲ比較シテ其多少ニ從ヒ決定ス可キ瞬間ニ接近セリ固ヨリ利益ナルノミナラス必要ナルコトハ既ニ各問題中ニ於テ判然タルヲ以テ再陳スルヲ要セサル可シ然レトモ如何ナル法律ト

雖モ百事利益ノミナリトハ期シ難シ況ヤ古今未曾有ノ大法典ナルヲ以テ其発布後ノ世論ハ発布前ノ世論ヨリモ喧ク発布後ノ閣下ノ困難ハ発布前ノ困難ヨリモ大ナルコトハ固ヨリ之ヲ覚悟セサル可カラス其前後ノ繁雜ハ憲法編制条約改正ノ如キ簡單ナルモノニ非ス其名譽ト不名譽トハ閣下之ヲ負担セサル可カラサルナリ謹言

明治廿三年一月在伯林府

横田国臣

山田伯閣下

明治廿五年五月廿三日印刷并出版（禁売買）

著作兼発行者 横 田 国 臣

東京市麹町富士見町五丁目二十番地

印刷者 長 尾 景 弼

東京市芝区西久保茸手町一番地

印行所 京橋区銀座四丁目 博 聞 社